



リリウオカラニ・プロテスタント教会

制作・発行



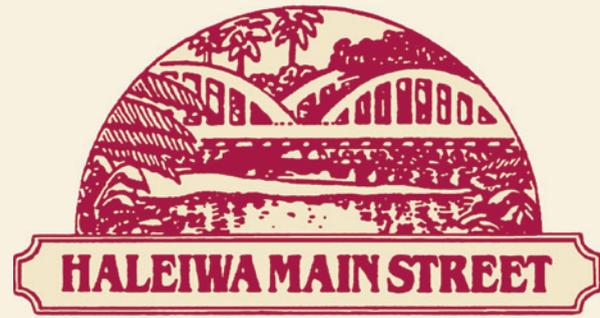
後援：ホノルル市・郡、  
ハワイ・ツーリズム・オーソリティー



ノースショア・ハレイワ商工会議所は、このウォーキングツアーの発起人であるメルル・アンデルセン氏、歴史的建造物とその土地の管理者、店舗経営者、そして、在りし日の記憶を語ってくださった方々に深く感謝します。また、このパンフレット制作にあたり、イラスト担当のイロナ・ヘンパーリー氏、グラフィックデザイン担当のジョー・ジーン・シーヴ氏、並びに、歴史的建造物保存委員会のローラ・フィゲイラ、アンティア・ミラー、バーバラ・リッチー各氏にも厚くお礼申し上げます。©Copyright 2004-2020 無断複写・複製・転載を禁じます。

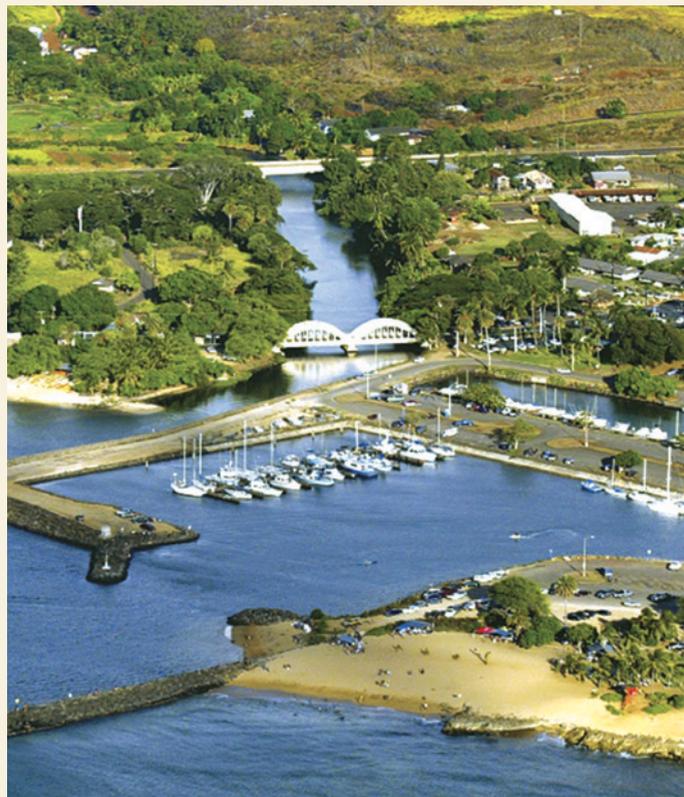
このパンフレットで使用された建物のイラストは、全てイロナ・ヘンパーリー (Ilona Hemperly) 氏が著作権を持ち、許可なく使用することはできません。

[www.GoNorthShore.org](http://www.GoNorthShore.org)



## Walking Tour of Haleiwa An Historic Village by the Sea

### 歴史ある海辺の町 ハレイワ ウォーキングツアー



## ハレイワ… 歴史ある海辺の町

古代ハワイアンは、西暦1000年頃にワイアルア地区に住み始め、谷や川、湾に沿って村を築いたとされています。魚介類が豊富な海、いくつもの湧き水が点在する肥沃な土地に人々は引き寄せられ、この地でタロイモやサツマイモのほか、様々な農作物を栽培していました。

1832年に、キリスト教宣教師がワイアルア地区に拠点を設け、アナフル川が太平洋へと流れ出る場所に、女生徒のための神学校を設立しました。神学校は「グンカンドリの家」「美しい人々の家」という意味を持つ「ハレイワ」と名付けられ、後に、その名が町の名となりました。

1899年に、実業家ベンジャミン・J・ディリングラム氏が、現在レストランのハレイワ・ジョーのある場所にハレイワ・ホテルを築きました。ハレイワの町は、その景色の美しさから人気の旅行先となり、旅行者はサトウキビやパイナップルの農園に沿って進む列車に乗って、ハレイワ

へと向かいました。ホテル、サトウキビ農園、鉄道は既になくなっていきますが、歴史ある、自然豊かな田舎町は今も残っています。

現在のハレイワは、オアフ島ノースショアにおける経済の中心地となり、ワイメア湾、エフカイビーチ（バンザイ・パイプライン）、サンセットビーチといった、世界的にも有名なサーフスポットへの入口となっています。プランテーション時代の建築様式を持つ40棟を超える歴史的建造物が立ち並ぶハレイワは、1984年、ホノルル市郡によって、歴史・文化・景観保護地区に指定されました。以降、この地に新たに建てられる全ての建築物は、昔ながらの建築様式に沿った、ハレイワ特別地区の建築基準を満たすことが求められるようになりました。

ハレイワでは、様々なビジネスが地元の人々によって営まれています。ブティック、チャーター船、サーフショップ、シェイプアイス屋...ハレイワの町は、子どもから年配の方まで、誰もが楽しめる場所となっています。

**1** **MUTUAL TELEPHONE COMPANY BUILDING**  
 ミューチュアル・テレフォンカンパニー・ビルディング 建築年：1930年頃

現在：ノースショア商工会議所（ビジター&ビジネス・サービスセンター）

歴史ある海辺の町 ハレイワ ウォーキングツアーへようこそ！

この建物は、通気口のある切妻屋根、下に向かって広がるデザインの外壁、屋根付きの玄関といった、プランテーション時代の建物の特徴をよく表しており、内装には板張りの壁に、上下にスライドするダブルハング窓が使われています。外壁は2010年に、杉板を用いて復元されました。この建物は、ミューチュアル・テレフォン・カンパニー（1954年に社名をハワイアン・テレフォンに改名）のマネージャー宅として建てられたもので、当初、カメハメハ・ハイウェイ沿いに建てられましたが、2008年に現在の場所に移りました。

ミューチュアル・テレフォンカンパニー・ビルディング  
ノースショア商工会議所

2

## WAIALUA COMMUNITY ASSOCIATION - WCA aka Historic Haleiwa Gym

### ワイアルア・コミュニティ・アソシエーション (WCA) / ヒストリック・ハレイワ・ジム

建築年：1937年



ワイアルア・コミュニティ・アソシエーション (WCA) は、ハワイ初となる公認の自治会で、1934年に設立されました。ワイアルアとはこの地域の名称で、同自治会は、郊外の生活をより魅力的なものにすべく設立され、図書館や公園の建築、郵便事業の推進など、町の発展に携わりました。企業や日系人団体から土地や建築費用の寄付を受け、ジムや集会場を持つこの建物が完成しました。

3

## TAKAHASHI BUILDING タカハシ・ビルディング

建築年：1915年



側面：

現在：カフェ・ハレイワ

前身：炭酸飲料販売店、タカハシ・サイミン、  
ナカイ・サイミン (1950~81年)

正面左側：

現在：ハレイワ・ボトルショップ&カフェ・ハレイワ



正面右側：

前身：フクナガ・ドライクリーニング  
店、アラキ・ピリヤード場、理髪店、  
カアラ・アート、サーフショップ



4

## K. NISHIMURA TAILOR & ISHIMOTO STORE K. ニシムラ・テーラー&イシモト・ストア

建築年：1914年

現在：ハレイワ・  
プランテーション・ショップ



長年放置されていた建物を、新たにオーナーとなったスコット・ウォレス氏が2013年と2014年に修復し、復元。

K. ニシムラ・テーラー

現在：ノースショア・グッディーズ、HI パイ・ペーカリー、トロピカル・トライブ

1899年、熊本からハワイへと移住したケイタロウ・ニシムラ氏は、妻トジウと共に、1914年にK.ニシムラ・テーラーを開業し、1925年には、息子のサムが経営に加わりました。第二次世界大戦に先立ち、ハレイワ在住の一部の日系人が、日本赤十字に寄贈するためトラックの購入を計画しました。サムは購入に関わったしるしとして、署名した紙幣で支払ったところ、それが日本軍が使用するトラックへの支援だとの疑惑をかけられ、1944年1月までの約2年間、ホノウリウリ日系人収容所に抑留されてしまいます。終戦をむかえ、自宅に戻ったサムは、1977年2月に亡くなるまでテーラーの仕事の続けました。サムと妻のヒサエはその間、6人の子をこの建物で育てました。

イシモト・ストア

現在：ボケ・フォー・ザ・ピープル、チャーズ・ビーズリー・フォトグラフィー

広島県出身の移民であるスミト&トヨシ・イシモト夫妻は、1937年頃、この建物で日用品を扱う小売店を開業しました。スミトは当時「トゥートゥーマン（機関車のように走り回る人）」として知られ、周辺にあるプランテーション労働者が住む宅地に、商品を届けていました。1950年代には、息子のタケシが店舗の横で時計修理業を始めました。イシモト夫妻が1965年に引退した後、タケシと妻のウメヨが事業を引き継ぎ、1992年まで営業を続けました。この閉店をもって、55年間に渡って家族が引き継いできた家業は幕を閉じました。

5

## MURATA STORE

### ムラタ・ストア

建築年：1938年頃

現在：ワン・ラブ・サーフ・  
ショップ、ノースショア・  
スモーク・ショップ



山口県出身の移民であるムラタ一家が、1930年代、ワイアルア・プロテスタント教会が所有していたこの建物を借りて、日用品を扱う小売店兼住居として使用していました。ムラタ氏の亡き後、妻であるユキが店の経営を引き継ぎ、1950年代に引退するまで、プランテーション労働者向けの合羽（かっぱ）やデニム生地の上着の作製も行っていました。1966年にユキが亡くなった後も、1975年にノヴィッキー家が建物を購入するまで、ムラタ一家はそのまま住み続けました。この建物は、理容室やギャラリー、サーフショップなどにも使用されてきました。

6

## HALEIWA SHINGON MISSION ハレイワ真言宗 弘昭寺 (こうしょうじ)

建築年：1925年



ワイアルア真言宗は、ワイアルア・プランテーションの労働者からの要望により、1918年、僧侶のギドウ・イケダ氏がハワイへと渡り、開教となりました。弘昭寺は、日本の寺院建築にハワイの建築様式を取り入れたデザインで、信者であるトミタロウ・コンノ氏とニイチロウ・ユアサ氏によって建てられました。本堂には、9世紀に真言宗を開いた弘法大師像が祀られ、境内には観音像が建てられています。1967年にハレイワ真言宗に改名。タイケン・アキヤマ氏が、9代目和尚として1958年から勤めています。

7

## SITE OF HALEIWA THEATER ハレイワ・シアター跡地

建築年：1931年、1983年10月解体

現在：マクドナルド ハレイワ店



この建物は、1911年に建てられたシアター「栄楽座 (えいらくざ)」に代わり建てられたもので、溶岩とセメントを使ったアールデコ調の新シアター（900席）は、歌舞伎をはじめとするライブパフォーマンスに、後年は主に、映画館として使われました。1983年に解体となった際には、住民が大反発し、コミュニティの団結へとつながりました。1984年、ハレイワが歴史・文化・景観保護地区に認定されたことで、歴史的建造物を保存すると同時に、新たに建物を建てる際には、プランテーション時代から残る建築物のデザインに調和させることになりました。

8

## MATSUMOTO BUILDING マツモト・ビルディング

建築年：1917年頃

現在：セレスティアル・ナチュラルフーズ、  
ピリーズ・バーバーショップ



2階部分にベランダがあり、正面の外壁を少し大きく作ることで立派な建物に見えるようにするフォルス・フロント様式をもつこの建物では、1920年代から1939年まで、クマ・フジタ氏によりサイミン屋が営まれていました。その後、電化製品の修理店、理容室、魚屋、韓国料理&食料品店としても使われました。2階は住居となっており、歯科医院として使われていたことがありました。1974年1月、カーター・アレン氏がセレスティアル・ナチュラルフーズを開業。ピリーズ・バーバーショップは、1989年から営業を続けています。

9

## ARAKI STORE アラキ・ストア

建築年：1939年頃

現在：コクア・ジェネラル・ストア (コクア・ハワイ財団)



1939年から1970年代にかけて、マサル・アラキ氏が、この建物で日用品と酒類の販売を行う家族経営の店、アラキ・ストアを営業していました。この建物では他に、美容室、鍼灸院、マッサージ店、サーフショップ、土産物店が営業を行っていました。1970年から2016年11月まで、インガ&リック・ヒメルマン夫妻によりハレイワ初の洋品店が営まれていました。2019年以降、この建物はコクア・ハワイ財団の所有となりました。

10

**WAIALUA COURTHOUSE****ワイアlua裁判所**

建築年：1913年、1998年に改築

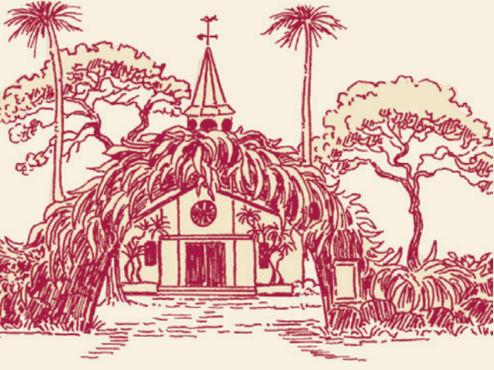
現在：ハワイアン問題事務局（OHA）が使用  
ハワイ州歴史登録財（1979年）

この建物は、ハワイには数少なくなったギリシャ風のグreek・リバイバル様式の建物で、南国の気候に合わせ、幅が広い軒下を持つ独特なデザインとなっています。法廷と判事執務室をもつ平屋建てで、ワイアlua地区で最初の政府庁舎として建てられました。建設当時、内部には郵便局、医務室、交番も入っていました。また、地下には4つの独房があり、犯罪者がホノルルに移送されるまでの間、ここに収監されました。建物裏手にはポンプ室、敷地の北東の角には、ホノルルまでの距離を表す指標が建てられており、現在は、文化的なアクティビティーやミーティングの会場として使われています。

11

**LILIUOKALANI PROTESTANT CHURCH & CEMETERY****リリウオカラニ・プロテスタント教会・墓地**

教団設立：1832年　1961年6月11日教会を献堂



1832年、ワイアlua・プロテスタント教会が、ギディオン・ラヌイ首長、宣教師のジョン・エマソン牧師と妻アーシュラによって設立されました。3人は、敷地内の墓地に埋葬されています。1840年に海際に草ぶきの教会が建てられ、後にレンガ造りの2棟目、1890年に木造の3棟目が、現在の教会敷地内に建てられました。ロコ・エua養魚池に面した場所に、別荘を所有していたリリウオカラニ女王は、当地を訪れた際に、この教会での礼拝に参加していたといひます。女王に敬意を表して、教団名は後にリリウオカラニ・プロテスタント教会と改名されました。現在の教会には、ハレイワの地名の由来となったガンカンドリ「イヴァ」の風向計や石造りのアーチ門といった見どころがあります。

12

**KATAGIRI BARBER SHOP****カタギリ理容室**

建築年：1900年代初期

現在：アオキズ・ノースショア・トレーディングカンパニー



この建物は、ハレイワで最古のものと考えられています。1900年代初期から1940年代にかけて、カタギリ一家がこの建物で、理容室を営んでいました。その後、ガソリンスタンド、タクシー乗り場、リサイクル店、アートギャラリー、ギフトショップ、洋品店と、様々な店がこの建物を使用してきました。アオキ家が2006年にこの建物を購入し、2013年に現在の店舗をオープンしました。アオキ家はかつて、この建物から道を挟んで向かい側に店舗を持ち、裁縫教室を開くかわら、アオキズ・シェイブアイスを1981年に開業し、その建物の解体が決まった際に現在の地に移転しました。

13

**M. MATSUMOTO STORE  
aka MATSUMOTO SHAVE ICE****M. マツモトストア  
(マツモト・シェイブアイス)**

建築年：1920年代

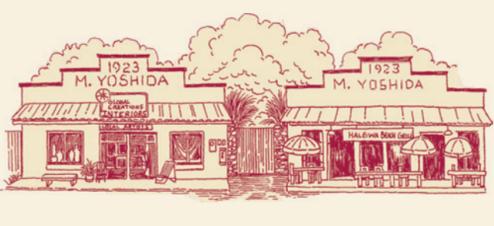


この木造の建物は、建てられた当初、カズアキ・タナカ氏が営む生地屋と郵便局として使われていました。タナカ氏は、ハレイワ初のデパート「エズモンド・スト」建設に向けて、資金集めの一環で、この建物をマモル&ヘレン・マツモト夫妻に売却。マツモト夫妻は食品店を開業し、後の1956年に、シェイブアイスの販売も始めました。マツモト氏の息子であるスタンレー&ノリコ夫妻が1976年に経営を引き継ぎ、現在に至ります。

14

**M. YOSHIDA BUILDINGS****M. ヨシダ・ビルディング**

建築年：1923年



この2棟の平屋建て・石造りの建物は、角砂糖のような形に切り揃えた溶岩の石を積み重ね、表面は漆喰（しっくい）で仕上げられています。正面の外壁を本体より高くして、大きな建物に見せるフォルス・フロント様式がとられたこれらの建物は、1916年からこの地にあった木造平屋建てのヨシダ・ストアに代わり、1923年に、マツジ&ハツエ・ヨシダ夫妻のために建てられました。

南側の店舗：  
ヨシダ夫妻が当初、生地屋を営んでいた建物です。その後、本屋、洋品店、インテリア専門店が店舗として使用しました。

北側の店舗：  
現在：ラジャーニー・タイ・ハレイワ  
1930年から1962年まで、ヨシダ夫妻はこの建物をT.M.サトウ氏に貸し、精肉店および釣具店として使われていました。その後、ドーナツ屋、ドレス専門店、レストランとして使用されました。

15

**H. MIURA STORE****H. ミウラ・ストア**　建築年：1926年頃

現在：サン・ロレンソ・ピキニ・ショップ



1912年、フサキチ・ミウラ夫妻は、ハレイワ南部に仕立て屋および生地屋の店舗を構えていました。リリウオカラニ女王も顧客の一人で、ドレスを注文したこともありましたが、1918年の火事で店舗が焼失したため、現在の地に新たな店舗を建てました。ミウラ・ストアの新店舗は1926年に完成し、男性用フォーマルウェアの販売を行いました。1960年代に入ると、販売していたオーダーメイドのサーフパンツが、質の良さで評判となり、有名なサーファーたちが愛用しました。経営を支えていたミウラ家の姉妹が引退するにあたり、2006年、隣の建物を所有していたモリオカ家に売却されました。

16

**MORIOKA BUILDING****モリオカ・ビルディング**

建築年：1950年

現在：ザ・グロウイング・ケイキ



当初、日用品を扱う小売店だったこの平屋建ての建物は、外壁を高く作り、建物を大きく見せるフォルス・フロント様式が外壁の三面に用いられ、柱のあるポーチが付いているという、1935年から1950年の建築様式で建てられています。この建物では、青果店、精肉店、印刷屋、アートギャラリーが店舗として使用し、1986年からは、子供服を扱うザ・グロウイング・ケイキが営業を続けています。

17

**BANK OF BISHOP & COMPANY****ビショップ&カンパニー銀行**

建築年：1927年頃

現在：ハレイワ・ボウルズ



4面の瓦屋根を持つ、スパニッシュ・コロニアル・リバイバル様式で建てられたこの建物は、ハワイの著名な建築家C.W.ディッキー氏が設計したもので、1927年頃からビショップ&カンパニー銀行の支店として使われました。銀行名は何度か変更され、現在は元ファースト・ハワイアン・バンクとして知られています。この建物では、後に、リサイクルショップ、アートギャラリー、アンティークショップ、洋品店、不動産屋が店舗として使用しました。

18

**SITE of the HALEIWA HOTEL****ハレイワ・ホテル跡地**

建築年：1898年、1952年解体

現在：ハレイワ・ジョーズ・シーフード・グリル



実業家ベンジャミン・ディリンガム氏は、ハワイの砂糖産業、不動産業、鉄道事業を推し進めた人物で、1899年、この地にハレイワ・ホテルを開業しました。ワイキキのモアナ・ホテル（1901年開業）も設計した著名な建築家オリバー・トラップハイガン氏が設計したヴィクトリア調の豪華なホテルで、ディリンガム氏が敷設した鉄道の、終着駅近くに建てられていました。1900年代初頭には、ホノルルからカエナポイント（オアフ島の北西端）経由でハレイワをつなぐ、2日間の電車ツアーが\$10（当時）で行われており、ツアーにはハレイワ・ホテルでの宿泊とワイアlua砂糖工場の見学が含まれていました。1952年にホテルは解体され、同地にはレストランが建てられ、1997年からはハレイワ・ジョーズがこの地を所有しています。

19

**ANAHULU STREAM BRIDGE****アナフル・ストリーム・ブリッジ**

建築年：1921年



この橋は、補強されたコンクリート製で、木製の橋に代わり、1921年に完成しました。ハレイワを象徴する建築物で、歴史あるハレイワタウンへの入口の役割を担っています。虹の形をしたアーチ型の橋は、かつては一般的な形でしたが、現在はこの橋と、ハワイ島ヒロのワイルク川にかかる橋の2つしか残っておらず、貴重なものとなっています。アナフル川は、オアフ島屈指の長さを誇る川で、コオラウ山脈から海に向けて流れています。西暦1000年頃には、古代ハワイアンがこの川沿いで生活しており、川の水を日々の生活や農耕に使っていました。1920年代、30年代は、漁師が小型漁船を川の兩岸に保留させ、その数はおおよそ50隻にものぼりました。現在はスタンドアップ・パドルやカヤックといったアクティビティを楽しめるようになっています。

20

**SURF 'n' SEA****サーフ・アンド・シー**

建築年：1921年頃



ワイアlua湾のマエuaエア・ビーチに沿って建てられたこの建物は、完成した1921年以降、数々の津波や高波に襲われていますが、かつての姿を現も残しています。1930年代初期には、W.H.ミウラ氏が家族と共に2階部分に住み、1階で生地屋と仕立て屋を営んでいました。1935年からは、オチアイ氏が家族経営の食料品店を開き、1944年に店舗を売却。1960年代には、モリ家の人々が住み、菓子屋と雑貨屋を開きました。リスキー家が1964年にサーフ・アンド・シーを開業。工具、銃と弾薬、スキューバ用機材を販売していました。サーフ・アンド・シーは後にジョー・グリーン氏がオーナーとなり、1982年にサーフショップとして再出発。ハレイワで最も歴史あるサーフショップとして現在に至ります。

21

**LANTAKA STORE****ランタカ・ストア**　建築年：1920年頃

現在：スイート・アズ、レインボーブリッジ・ギフトショップ



1920年代、K.ヨシダ家がこの建物を借り、日用品を売る小売店や飲料販売店、理容室を開業しました。一家は1941年に日本に移住したため、1948年、ベニタ・ランタカ氏が建物を借りました。バナフリッターが人気の食料品店を営み、1975年にランタカ氏が亡くなるまで店は続きました。この建物では、洋品店や土産物店など、数多くの小売店が店舗として使用し、ここで誕生したハレイワ初のピザ店「ピザ・ボブズ」は、40年以上に亘り人々が集まるノースショアの集会所のような役割を担っていました。

22

**LOKO EA FISH POND****ロコ・エua養魚池**

16世紀には使われていたとされる古代ハワイの養魚池



ハワイでは、海に接したところに池を作り魚を養殖するという、独自の養魚池が造られてきました。養魚池には水門が設けられ、小型の魚が水門を通して池の中に入って育ち、体が大きくなると、水門から外には出られなくなる、という仕組みでした。ロコ・エua養魚池は、川と湧き水によって、約1.4km北にあるウコua養魚池とつながっています。リリウオカラニ女王は、1800年代終わり頃から1900年代初頭にかけて、この養魚池の西に別荘を持っていました。1920年代からは、地元の人々がこの池で漁業を行うようになりました。その後は放置されていましたが、現在は様々な機関が協力し合い、養魚池を復活させようと努めています。

23

**WAIALUA LIONS WAR MEMORIAL****ワイアlua・ライオンズ戦争記念碑**

建築年：1947年



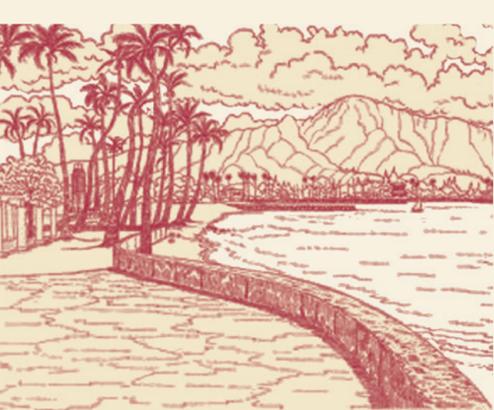
ライオンズクラブのウォルター・S・タナベ氏の設計により1947年に建てられた記念碑で、第二次世界大戦で犠牲となったワイアlua、ハレイワ、カフク出身の兵士を追悼するために建てられたものです。四角い台座は、四方に広がる全世界を、台座から延びる軸は普遍的な人類の兄弟愛を、軸の上のライトは、永遠の平和と博愛を表しています。記念碑の周りに立てられている16個の砲弾は、第二次世界大戦で犠牲になった、ノースショア出身の16人の兵士を表しています。1959年には朝鮮戦争の犠牲者の名を、1986年にはベトナム戦争の犠牲者の名をそれぞれ記したプレートが取り付けられました。

長きにわたり、毎年メモリアル・デー（戦没者追悼記念日）には、ライオンズ・クラブにより記念式典が行われています。

24

**HALEIWA BEACH PARK****ハレイワ・ビーチパーク**

1939年10月開園　ハワイ州歴史登録財（1988年）



建設当初はワイアlua・ビーチパークと名付けられましたが、1948年にハレイワ・ビーチパークと改名しました。エレガントなアールデコ調のデザインを得意とする建築家ハリー・シムズ・ベント氏により設計された公園で、同氏はアラモアナ・ビーチパークなども設計しています。失業者があふれた大恐慌時代、公園の建設を通して多くの雇用を生み出しました。現在、公園はカヌーのトレーニングや大会会場として、また、カヤックを行う人やサーファーには海へのアクセスポイントとして使われています。防波堤が築かれる前は人気の海水浴場で、第二次世界大戦中は「ソルジャーズ・ビーチ（兵隊たちのビーチ）」として知られていました。

詳しくは、商工会議所へお電話（808-637-4558）、

または、[www.GoNorthShore.org](http://www.GoNorthShore.org)をご覧ください。

ハレイワ・メインストリート

（通称、ノースショア商工会議所）は、

歴史ある建造物の保存を通して経済発展を促す目的で、

1985年に設立された非営利団体（501 c3）です。

現在はさらに、リサーチや教育、啓蒙活動などを通じ、

ノースショア地区の歴史や文化の保存、人々の生活の向上、

経済活動の安定維持を目的として活動しています。